

太田市自分ごと化会議 2021

第2回 議事概要

日時	2021年12月11日(土) 13時30分～16時30分
場所	太田市役所 3階 大会議室
コーディネーター	千葉県市原市 企画部長 高澤 良英

凡例) コ：コーディネーター、委：委員、市：市職員

議事概要

■前回の振り返り

コ：今回の参加者の方は積極的に議論していただいている印象を受けた。皆さんのコミュニティのイメージは太田市というくくりで考える方が多く、次に自治会、群馬県という順だった。また、区長さんの顔も名前も知らない方も多かった。前回出ていた地区の問題点では、高齢者の孤立化、ごみ出しの問題や野焼き、道路の問題などもあがった。自助、共助、公助のバランスが大事という話もした。地区役員の不公平の話も少し出たが、その理由は役員の仕事がメリットよりも大変さの方が大きいのではないかとの話も。このように様々な地域の？が前回の会議では挙がった。今日の進め方としては、①太田についてよく知る時間。まちづくり基本条例のことや地域特性、陳情や要望に対する行政の守備範囲、地区にどんな役員があるのかについて。②グループ討議で身近な地域の変な所や、課題や問題のあぶり出し。その後、理想の地域の姿のイメージについて話し合ってもらおう。

■議論

コ：最初に前回みなさんから質問のあった太田市のことについて説明をお願いします。
(説明資料配布)

市：まちづくり基本条例について。(説明省略)

委：条例の中にコミュニティについて記載があるが、具体的にコミュニティの定義を定めているのか。

市：定義づけはしていないが、以前は地域コミュニティとなっていたが、コミュニティは地域だけではないので、頭の地域を取った経緯はある。

委：上位規範ということだが、これをベースに何か下位の条例を改正したこと等あるのか。

市：現状ない。あくまで理念（考え方のベース）という位置づけで、この条例で何かほかの条例を制限しようというものではない。

コ：各自治体にこういう条例はあるが、太田はとても早く作った。特徴としては、市民主権に重きを置いていることがある。お時間あるときに条例について見てみてください。

市：地区ごとの年齢層等について。（説明省略）

コ：太田市全体の高齢化率は26.1%で、日本全体で見ると約29%なので下回っている。外から来ている私から見ると、太田市は全体的に若い人が多いイメージがある。

市：働く人が多いのでそうなっているのかと思う。地方からスバルに働きに来ている人もいる。

市：行政の守備範囲について。受けた要望は基本受けるが、どうしても手を出せないものもある。たとえば空き家の木を切るというときには、市は勝手に切ることにはできないので（民地であるため）、持ち主に改善をお願いするところまでになる。また、スズメバチの駆除は市でできるが、あしなが蜂ミツバチのような他の蜂については対応できていない現状がある。スズメバチは命に直結する問題なので対応しているが、その他の蜂までとなると数が多すぎて行政だけでは対応できないのが現状。民地が絡む問題だと行政があまり深く介入できないケースがあるが、疑問がある場合はまず問い合わせてもらえればと思う。

コ：公の中には、行政のような官と、皆さんや民間企業のような民が存在しているが、官と民の役割が時代の変化に応じて変わってきている。江戸時代のような大昔は住民たちで力を出し合って道路の整備を行っていた。その後、戦後の高度経済成長でサラリーマンが増え、税収も増え、そのお金で道路や草刈りなどを行政が担うようになった。しかし現在は人口が減るに伴い税収も以前のように右肩上がりではなくなり、そんな中で官と民の役割が変わっており、さらには民の中の役割も変わってきている。例えば今までは主に家庭内だけで解決してきていた介護については、昔のように8人兄弟の大家族などは減るなど子供の数の減少もあり、介護保険制度が確立されみんなで解決しようという流れになった。子育てについても保育所を整備したりして、お母さんだけでなく社会全体で子育てしようというように、行政へのニーズではなく公に対するニーズ、社会全体に対するニーズが変わってきている。空き家についても本来は個人の管理（個人の財産に行政が介入することはご法度）だが、民だけでは対応しきれないので一部行政が介入している部分もある。この官と民の守備範囲の割合は時代に応じて変化している。

委：介護や子育ては家庭だけでどうにもならないケースもあり、女性の負担が大きくなっていると思う。また、自分たちが独居家庭になったとき、頼りにするのは官の部分になると想像できる。税金などを使って社会として子育てや介護を助けることは必要になると感じた。

委：猫の問題は守備範囲があいまいな部分があると思う。アパートによっては何匹までと決まっていますが実際には守っていない人もあるケースがあるが、そういったところには行政はタッチしていないのだと思う。

コ：介護の話も猫の話もそうだが、今は大きな問題になっていなくても、将来的に多くの人の問題になりそうなものに対しては行政が介入していく可能性はある。または、共助の部分が介入して、「この地区ではこうしましょう」のようなルールを作るケースも考えられる。このルールは条例などとは違い罰金などが発生するものではないが、本来ルールは規制するためのものではなく、みんなが楽しく生活するためのものなので、行政だけでなく皆さんでルールを作ることもありうる話だと思う。みんなが暮らしやすくするために、みんなが話し合っただけでルールを決めたりするということ。

市：地区の役員について。（説明省略）

委：民生委員は3年任期（12月に改編）でボランティアだった。守秘義務もあり大変な部分もある。

委：育成会の役員をやったが、育成会費を各家庭に集めに行くのが大変だった。働き方も様々で、家にいる時間もまちまちだったのでとても大変だった。会費の集め方は工夫できるのではと思う。

委：うちの地区では育成会の役員ではなく、組長が一括で各会費を集めている。

コ：育成会や子供会は地区によって減ってきていたりするものですか。

委：地区によって対象の家庭が少ないところもある。うちの地区は3年に一度くらいの頻度で役員が回ってくるが、人が少ない地区だと1年おきくらいの頻度で回ってくるところもある。

委：区によって人数も違うので、これらの役員があっても人数の多い地区だと、その役員だけでは問題を把握できない場合もあるのではないかと感じた。

委：こんなに役員があるのは知らなかった。地区の人数によっては、なり手がいないという問題が出てくると思う。また、区長推薦でなり手を決めているものが多いが、やりたい人もいると思うから、まずはこういう役員があることを周知すれば自発的ななり手が見つかるのではないかと思った。もしくは、なり手がいないところはほかの地区と統合するのもありなのではないかと思った。この自分ごと化会議もそうだが、こういうものがあるということを知れば参加してみようと思う人はいるのではないか。

コ：たとえば地区だよりの中で紹介してみたりすると、やってみたい人が見つかるかもしれないし、人が少なくなり手がいない地区は隣の地区と統合するということもありかもしれませんね。

委：女性防火クラブとあるが、女性に限定することに意味があるのでしょうか。

市：それこそ江戸時代などのかかなり古い話になるのだが、当時女性が家庭を守るという風潮があり、出火元は台所が多かったので、初期消火をするために女性が活躍したというところから女性防火クラブが始まったと言われています。考え方としては少し古い考え方になっている。

委：様々な委員さんの選出方法が区長推薦とあるが、区長さんはどういう基準で各委員を決めているのか。区長さんはそんなに顔が広いものなのでしょうか。

市：今は区長さんのなり手がなかなかいなかったりするが、昔はその地区の名士というような方がやっているケースが多く、そういった方たちは地区に顔が利くという経緯があり、推薦していただいていた。その流れがあり現在も区長推薦というようなきまりになっているというのが現状です。

コ：もしかすると、今になじまない考え方になっているのかも。

委：隣組長をやったときに、行政区ごとの組長が集まってこれらの役員を決めたことがあったのだが、ほかの地区もこういう決め方なのか知りたい。行政区ごとに役割が決まっていってそこに人を当てていくようなイメージだったので、区長推薦というのがいまいちピンとこなかった。

コ：そういった形で決めて、最終的に行政に報告するときに区長推薦という形で提出しているのかもしれませんが。やりたい人に手を挙げてというのは必要かも。あとは役員になるとやめるときに変わりを見つけなければいけない場合があるが、そういったところも

なり手が見つからない一員なのではと感じる。ここまでの役員の話に共通していることは、役員がやらされ感（ある種の罰ゲームのようなイメージ）のあるものになっているということかと思う。かといってやりたい人を募ろうとしても情報が少ないという問題も見える。ではここからグループ討議。最初に、現状の地域の問題を考えてください。（困っていること、不満、こんなコミュニティは嫌だ）次に、解決方法はいったん無視して、漠然でもいいので理想の形を考えてもらいたい。（誰にでもやさしいコミュニティ、こんなコミュニティがいい、こういう部分は残していく必要がある）

～グループ討議～

コ：ここまででどんな意見が出たかを教えてください。

委：現状の問題→アパートに区長役員が来ないので、地域のコミュニティに関わる機会がないから、何に困っているのかわからないし、どこまで関わっていいのかもわからない。また、地区によって独自のルールのようなものがあるケースがある。区長は形式上投票してはいるが、この人の名前を書いてくださいといったようなはじめから決まっていることもありそれも変だなと感じた。役員会議が平日の昼間だったりするので、仕事をしていると参加しづらい。

理想の形→情報の伝達を、スマホなどを使って簡単にする。広報や回覧などの情報を、行政から個人に対して直接情報を発信することで区長さんの負担を軽減すれば、区長さんのなり手も出てくるのではないか。世代間の交流をたくさん作る。

コ：ローカルルールの話は他の班でも出ていた。ある地域では市全体としては7時集合でいいのに、「うちの地域は6時に集まる」のようにローカルルールを作っているところもあるようだった。そのルールはその地域の高齢の方たちが決めたものなので、若い人たちと隔たりが発生したりしている。価値観も世代間によってかなり違うので、真の世代間交流をする際には若い世代の価値観を中心に考える必要も出てくるかもしれない。

委：話題として出たのは、役員の種類、誰がやっているのかなどがわからないこと。冠婚葬祭などの時地域で協力していたが、今はそういうことがなくなったり、やることの変化している。情報伝達について、回覧板は情報を伝えるだけでなく渡す際にコミュニケーションが発生していたこともいい面だったのではないか。仮にデジタル化するとしても、ただ情報伝達をするだけでなく、コミュニケーションを持つ場としての役割も何らかの形で継承する必要があるのではないか。一つ空き家問題でいい例の話があった。草が生い茂りごみの不法投棄が起こる場所があったが、地域で協力して草刈りをし、1%まちづくりを活用し蓮の池を作ったという事例もあった。こういういい事例を広報などで周知する

ことも重要なのではと感じた。

コ：回覧板を渡すときにフェイス to フェイスだったのが利点だったという話はいいなと思った。情報伝達をデジタルで便利にするとそのような機会が減るので、便利になった代わりに失うものについても考えるということ。

委：困ったこと→路上駐車が多い。道が狭い。植木が敷地外に出ている。区費で会館を有効活用できないか（コミュニケーションの場として活用する等）。年金が増えれば高齢者が運転する必要がなくなるのではないか。時代に合わせて65歳以上を高齢者とするの見直し。地域によって土地の価格も違うため子供の増える地域とそうでない所の差があり、学校の生徒数の差もどんどん広がる。

理想の形→田舎のご近所付き合いが参考になった例として、草むしりをしてあげる代わりに車を置かせてあげるといった話があった。ウィンウィンの関係を築き、そういった姿を子供たちに見せることで、心地よい距離間、理想の関係作れるのではないか。

コ：ウィンウィンの関係の話。今の時代距離感が難しいということと話していたが、それを解決するためにはウィンウィンの関係を築くことが、今の時代にとっての心地よい距離感をつくる助けになるのではないか。

委：困ったこと→子供の見守りが少なくなり、旗振りの人数も減った。公園に行ったときにゲートボールが優先になっていた時があったが、その場合は看板などで周知しておく必要があるのでは。

理想の形→コミュニティと少しズレるかもしれないが、人間は笑顔とまごころで接すれば必ず変わると思う。笑顔とまごころがコミュニティの形成の役に立つのではないかと感じる。

コ：子供の見守りや旗振りについては、どこまでやるべきなのかという話もあった。やりすぎると子供の注意力が低下するという可能性もありどこまでやるべきなのかという話も出ていた。

委：困ったこと→近所付き合いが減り、災害時等にお年寄りがどこに住んでいるかわからず助けてあげられない。道が暗くて危ない、怖い。地区の役員の種類や仕事内容について周知する必要がある。地域のお祭りやかるた大会などをやっても、役員が中心になってしまっている。ほんとに子供が楽しめる内容になっていないのではないか。いやいや参加させられたり、親が役員だから参加しているという意見もあった。

理想の形→みんなが楽しく参加できるイベントが必要ではないか。お年寄りと交流を持

つ機会を増やす。困ったときに地域の人に助けを求められるような関係づくり。

コ：上毛かるたの話で、楽しいと思う人もいれば、やらされていると感じている人もいたと話していたが、子供の行事なのに大人が主語（続けることが目的）になってしまい、子供が楽しむという観点が抜けてしまっているという考え方は大切なこと。この班の若い人たちもコミュニティのようなつながりは必要だと感じると話していた。そんな環境を作るためには楽しいということも大切だし、誰のためにやっていることなのかも忘れてはいけない。若い人たちが地域コミュニティについて考えるにあたり、防災の面からお年寄りのことを考えた視点で議論が進んだのはとてもいいと感じた。災害が起きた時（困りごとが起きた時）にコミュニティがもしなかったらどうなるという視点で考えることは重要なこと。

委：困ったこと→地域の役が多い。また、困りごとの役に立っていないなかったり、昔からやっているからやっているというケースがある。どう役に立っているか（効果）が見えないからなり手がなくなるのでは。ごみ出しのルールを守らない人がいたときに、誰が守らないのか特定できないから指摘ができない。

理想の形→住民の困りごとや嬉しいことをくみ上げる仕組みができています。役の見直しが仕組化されていて、かつ見える化している。どんな役があって、どんなことをしているかが見えれば、なり手も増えるのでは。役が終わった後は振り返りをし、どんな効果があったのかをきちんと報告、効果の少ないものは見直したり廃止する仕組みとする。タブレットを持っていない世帯に配布しデジタル化を進める。使い方のサポートもする。マイナンバーや SNS やキャッシュレスを活用し集金や回覧を簡素化する。ただし、デジタル化に伴ってコミュニケーションの機会が減らないようにする。例えば開封通知の機能などを使用し、通知が開封されない世帯には様子を見に行くなどのような、見守りの仕組みも考える。

コ：役員をするにあたってどう役に立っているのかがわからないのは問題。役に立っているという実感がわかれば、役員をやる側のモチベーションにつながるのでは。効果の見える化することは必要であり、行政も考える必要があるのでは。アナログからデジタルにすることで問題が解決するケースもあるかもしれない。